

飯豊少年自然の家 研修ガイドマップ



◇三つ又の松(通年)
三つに枝分かれた立派なアカマツがある。姿形もすばらしい。自然の家で最も大きい松では？

◇ヌルデ(通年)
葉の軸にひれ状の翼葉がある。葉につく虫えいはタンニンを含み、「お歯黒」の原料となった。

◇クヌギ・ナラガシワ(通年)
クヌギは灰捨て場の下方に1本、ナラガシワはまつかさ炊飯場の上部に数本だけある。自然の家では希少な木である。

◆ウバユリ(初夏～秋)
群生地。花は地味だが、花も実も大きく草丈も高いためよく目立つ。花が咲くころに葉を落とす。

◇キリの大木(通年)
成長が早く、大きな葉と藤色の花をたくさんつける。下駄・筆筒などの材となる。

◇ナラ(通年)
自然の家の全エリアでよく見られる。葉柄があるものがコナラ、ないものがミズナラ。

◇ゴヨウマツ(通年)
自然の家ではここにだけ生えている。葉が五葉性なのでこの名がついた。

◇カラマツ(通年)
自然の家では常設テント奥とまつかさ炊飯場入口にだけ生えている。

■タヌキのトイレ(通年)
タヌキは同じ場所に糞をする習性があり、いつもこのあたりに糞をする。

◇杉の巨木(通年)
馬頭観音のわきに生えている杉は自然の家で一番大きいのでは？

■ひょうたん池の生き物(通年)
ヤモリやカナヘビ、カエル類が多数生息している。数年前に放したコイやフナが個体数を増やしている。

◆ヒメサユリロード(初夏)
山道の両側にヒメサユリが群生している。自然の家で最も多くのヒメサユリが見られる。

◆ミズバショウ(春～初夏)
自然の家では三共沢を渡るこの場所にしか自生していない。

本館周辺～まつかさTで見られる植物

- ◇ハウチワカエデ(通年)**
葉の形が天狗の羽団扇に似ていることから名がついた。カエデ類の中では最も大きい物の一つ。
- ◇イタヤカエデ(通年)**
葉の形がカエルの手のよう。樹液は糖分を持っており、メープルシロップの代用品となる。
- ◇ハッコヤナギ(春～初夏)**
掲揚台わきにあり、初夏には大量の綿毛を飛ばしているのによく目立つ。
- ◇オクチョウジザクラ(春)**
花の形が香辛料のチョウジに似ているためこの名がついた。根元から枝を広げている。
- ◆ショウジョウバカマ(春)**
赤い花を酒好きな伝説の動物「狸々」に、葉を袴に見立ててこの名がついた。
- ◇タニウツギ(初夏)**
枝を乾燥させて火おこしの芯材にしている。山形では「カジバナ」ともいって庭木にするのを嫌う。
- ◆ヒメサユリ(初夏)**
所花である。日本特産のユリで、飯豊連峰や吾妻山などの近辺にしか群生していない。
- ◆イワナシ(初夏)**
- ◇ヤマツツジ(初夏)**
- ◆ヌスビトハギ(秋)**
- ◆キンコウカ(秋)**
- ◆ゲンノショウコ(秋)**
- ◆キンミスヒキ(秋)**
- ◇ガマズミ(秋)**
- ◇ナナカマド(秋)**

- くりのきT～展望台で見られる植物**
- ◆チゴユリ(春～初夏)**
 - ◆キバナイカリソウ(春～初夏)**
 - ◆アマドコロ(春～初夏)**
 - ◇ムラサキシキブ(秋)**
 - ◇オオバクロモジ(通年)**
枝に黒い藻類が着生することから「黒文字」の名がつけられた。香りの良さから高級楊枝の材にされる。

- 湿地で見られる動植物(初夏)**
- ハツチョウトンボ**
 - ◇ウメバチソウ**
 - ◇モウセンゴケ**

※表記について ◆草花 ◇樹木 ■その他 () 内は見頃